

科目名 (英)	化粧品化学 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川名 修
	Physics and Chemistry for Beauty	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科			曜日・時間	木曜日1・2・3・4限		
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
民間企業で材料開発に携わり、化粧品にも精通した講師が講義を担当する。目的:美容室を訪れるお客様は美容師が化粧品を扱うプロであると信頼して技術を受けている。その信頼に応えること、つまり化粧品の性状や正しい使い分けは勿論のこと、社会的な意義・法的な根拠・安全性などをどのように担保しているかまで当然認識しているべきである。これらの目的を達成するべく体系的なカリキュラムに従ってバランスの取れた総合的な理解を目指すことを目的とする。							
【授業を通じての到達目標】							
この科目では化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的の他、どのような薬品が化粧品に用いられるのか、その定義・社会的意義や特性・法的根拠・製品の安定性も含めた安全性について講義する。これは顧客に対して絶対に事故を起こしてはならないという絶対的な命題のためであり、公衆衛生に資する美容師として身につけなければならない知識である。この目標を強く意識して授業に取り組んでいただきたい。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
化粧品化学(日本理美容教育センター)				随時、調査課題を出題するのでそれらを調査して自立的に学び、発見する経験を積んでもらいたい。			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	導入、化粧品概論①						
2	化粧品原料①					2点	
3	化粧品原料②					2点	
4	界面活性剤の種類と働き①					2点	
5	界面活性剤の種類と働き②					2点	
6	色材の種類とそれらの性質①					2点	
7	色材の種類とその性質②						
8	中間テスト					20点	
9	その他の配合成分①						
10	その他の配合成分②					2点	
11	高分子化合物、香料、特殊成分①					2点	
12	高分子化合物、香料、特殊成分②					2点	
13	基礎化粧品、皮膚清浄用化粧品①					2点	
14	基礎化粧品、皮膚清浄用化粧品②					2点	
15	期末テスト					60点	
教科書巻末の付録は各授業の冒頭や必要な内容の際に解説をする。最終的には期末までに内容を網羅する。				<b>【評価について】</b> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	国試総合技術 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野 大輔
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜、1・2限か3・4限
学科・コース		美容師科					
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容業界で美容師としての実務、運営、、教育に20年以上関わって来ました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許習得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役に立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。 目的:美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない、技術・理論を学ぶ。 概要:この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身に付けてながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許習得に欠かせない重要な基本的なスキルである。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、国家試験に合格できる作品を作れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWは状況を見て告知)						1点
2	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWは状況を見て告知)						1点
3	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWは状況を見て告知)						1点
4	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習						1点
5	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習						1点
6	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習						1点
7	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習						1点
8	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習 模試に向けて衛生の確認						1点
9	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習 模試に向けて衛生の確認						1点
10	模試振り返り 弱点強化						1点
11	次回模試に向けての練習						2点
12	次回模試に向けての練習						2点
13	模試振り返り 弱点強化						2点
14	次回模試に向けての練習						2点
15	次回模試に向けての練習						2点
【特記事項】 模擬試験の結果を中間・総合確認試験の点数に反映する。授業内容はWD、AW、国試Cの3課題の通常授業での進行状態により、課題を入れ替えて行うものとする。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	国試総合技術	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野 大輔
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	2	開講区分 曜日・時間	前期 火曜か水曜、1・2限か3・4限
学科・コース		美容師科					
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容業界で美容師としての実務、運営、、教育に20年以上関わって来ました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許習得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役に立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。 目的:美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない、技術・理論を学ぶ。 概要:この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身に着けながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許習得に欠かせない重要な基本的なスキルである。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、未完成とならない作品を作ることが出来るようになる。主にタイムアップ、採点項目の強化にあてる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授業概要					テスト配点	
1	授業の内容説明、WD技術のタイムアップ23～20分					1点	
2	WD技術のタイムアップ22分～20分					1点	
3	WD技術のタイムアップ21～20分					1点	
4	AW通常授業の復習					1点	
5	WD通常授業の復習					1点	
6	AW通常授業の復習					1点	
7	WD通常授業の復習&中間確認テスト					20点	
8	AW通常授業の復習					2点	
9	WD通常授業の復習					2点	
10	AW通常授業の復習					2点	
11	WD通常授業の復習					2点	
12	AW通常授業の復習					2点	
13	WD通常授業の復習					2点	
14	AW通常授業の復習					2点	
15	WD、AW総合確認テスト					60点	
【特記事項】 3回目までの内容はWDで確定。4回目以降はWD、AW、国試Cの3課題の通常授業での進行状態により、課題を入れ替えて行うものとする。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容実習 国試CUT	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野 大輔
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	2	開講区分 曜日・時間	後期 火・水いずれかの1.2限か3・4限
学科・コース		美容師科					
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容業界で美容師としての実務、運営、教育に20年以上関わって来ました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許習得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役に立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。 目的:美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない、技術・理論を学ぶ。 概要:この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身に付けてながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許習得に欠かせない重要な基本的なスキルである。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、国家試験に合格できる作品を作れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
国家試験で使用する教材(初回持ち物参考)				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	タイム25分でチェックカットも含めカットする					1点	
2	タイム23分でチェックカットも含めカットする					1点	
3	タイム22分でチェックカットも含めカットする					1点	
4	タイム21分でチェックカットも含めカットする					1点	
5	タイム20分でチェックカットも含めカットする					1点	
6	タイム20分で長さ・残り毛の減点の無い作品をカットする					1点	
7	衛生も意識しながらのカットをする					1点	
8	タイム20分でレイヤーのつながりの減点の無い作品をカットする					1点	
9	タイム20分でヘムラインの減点の無い作品をカットする					1点	
10	タイム20分内で1発切りCUT					1点	
11	タイム19分内で1発切りCUT					2点	
12	タイム19分内で1発切りCUT					2点	
13	タイム19分内で1発切りCUT					2点	
14	タイム18分内で1発切りCUT					2点	
15	タイム18分内で1発切りCUT					2点	
【特記事項】 模擬試験の結果を中間・総合確認試験の点数に反映する。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容実習 国試CUT	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野 大輔
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	火・金いずれかの1.2限か3・4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容業界で美容師としての実務、運営、教育に20年以上関わって来ました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許習得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役に立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。 目的:美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない、技術・理論を学ぶ。 概要:この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身に付けてながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許習得に欠かせない重要な基本的なスキルである。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、未完成とならない作品を作ることが出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
国家試験で使用する教材(初回持ち物参考)				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	授業の内容説明および作業準備、作業手順の導入①						
2	作業手順の導入②						
3	作業手順の導入③						
4	手順全体の復習						
5	フロントCUTまでの手順をスムーズに					1点+(ノート10点)	
6	バックのアウトラインまでを正確に早く					1点	
7	5、6回目の復習とスピードアップ					中間20点	
8	第3.2.1ブロックのカット手順復習とタイムアップ						
9	8回目の復習とスピードアップ						
10	全行程通して27分でカットする					1点	
11	全行程通して25分でカットする					1点	
12	全行程通して22分でカットする					2点	
13	全行程通して20分でカットする					2点	
14	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする(チェックカット導入)					2点	
15	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする					定期60点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容実習 (国試カット)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野 大輔
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火・金いずれかの1.2限か3・4限
学科・コース		美容師科					
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容業界で美容師としての実務、運営、教育に20年以上関わって来ました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許習得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役に立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。 目的:美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない、技術・理論を学ぶ。 概要:この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身に付けてながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許習得に欠かせない重要な基本的なスキルである。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、未完成とならない作品を作ることが出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
国家試験で使用する教材(初回持ち物参考)				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	授業の内容説明および作業準備、作業手順の導入①						
2	作業手順の導入②						
3	作業手順の導入③						
4	手順全体の復習						
5	フロントCUTまでの手順をスムーズに					1点+(ノート10点)	
6	バックのアウトラインまでを正確に早く					1点	
7	5、6回目の復習とスピードアップ					中間20点	
8	第3.2.1ブロックのカット手順復習とタイムアップ						
9	8回目の復習とスピードアップ						
10	全行程通して27分でカットする					1点	
11	全行程通して25分でカットする					1点	
12	全行程通して22分でカットする					2点	
13	全行程通して20分でカットする					2点	
14	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする(チェックカット導入)					2点	
15	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする					定期60点	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	就職講座 I	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	岩本・神谷・鈴木・尾崎・大迫
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科						
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>サロンでの実務経験のある職員が、就職活動に必要なスキル・国家試験に対する取り組み方などをグループワークを通して授業展開を実施する。 美容師(職業人)として必要な身構え・気構え・心構えを理解し、目標に向けて、行動する事が出来る。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>国家試験への意欲を高め、授業に臨む姿勢をつくることできる。 就職活動が活発になり、意欲的に取り組むことができる。 学校行事を通して目標設定やスケジュール管理を行えるようになる。国家試験の概要を理解し、必要な知識を身につけていく。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	就職活動状況表作成						
2	ITリテラシー・サポートアンケート						
3	自己開示・他者理解のグループワーク						
4	チームビルディングのグループワーク						
5	7つの習慣「習慣」の理解						
6	7つの習慣「パラダイム」の理解						
7	中間テスト(1年次筆記科目)					中間テスト 40点	
8	7つの習慣「原則」の理解						
9	内定写真、卒業アルバム写真撮影						
10	コミュニケーション力を鍛えるグループワーク						
11	7つの習慣「第1の習慣」						
12	7つの習慣「第1の習慣」						
13	7つの習慣「第2の習慣」						
14	7つの習慣「第2の習慣」						
15	定期試験(1年次の筆記科目)					定期試験60点	
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	美容技術理論II	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	市川 てるみ
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	木曜日(1限~4限)
学科・コース	美容師科						
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師としてサロンワーク、スタジオワーク、コンテストの経験を経て、現在もフリーのヘアメイク、美容師として活動する教員が美容師国家試験の合格を目指す学生の為、現場の現状を伝えながら、美容技術についての知識を深めていく。							
【授業を通じての到達目標】							
美容師国家試験合格を目指し、各分野の美容技術を理解できるようになる。国家試験問題に対応できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
美容技術理論II教科書、筆記用具(マーカー含む)							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	12章 花嫁 着付けの目的と各部名称						
2	12章 着付けの一般要領と基本ルール						
3	12章 着付け技術と注意事項 11章 日本髪由来 名称						
4	11章 日本髪道具 技術					5点	
5	10章 メイクアップ道具 ベースメイクアップ						
6	10章 各部メイクアップ まつ毛エクステンション					5点	
7	今までの復習、振り返り、確認						
8	中間テスト					20点	
9	中間テスト振り返り、確認						
10	9章 ネイル技術 概論						
11	9章 ネイル技術道具、手順					5点	
12	9章 ネイル技術、注意事項						
13	8章 エステティック概論						
14	今までの復習、振り返り確認、試験対策						
15	定期試験						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価</li> <li>A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点)/D評価(60~69点)</li> <li>E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</li> <li>●評価方法</li> <li>評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			



科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ(柴野) Technological theoryⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	柴野 宏司
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	2・3組月曜日3・4限、1・4組金曜日3・4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
サロン実務経験30年、カットスクール講師および化粧品メーカー研究所での製品開発経験を持つ担当教員が行う、アクティブラーニングを取り入れた授業を通して、美容師として必要となる美容技術理論を修得する。							
【授業を通じての到達目標】							
美容師資格試験合格に必要な美容技術理論の知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
美容技術理論1							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	美容技術を施術する際の正しい姿勢と、その理由を学ぶ。						
2	美容用具の使用目的と、手入れ法を学ぶ。						
3	シャンプー剤のはたらきや有効成分について学ぶ。						
4	リンス・コンディショナー・トリートメント剤の効果の違いや成分について学ぶ。						
5	ヘアカッティングの基礎理論と、シザーズによるカット技法を学ぶ。						
6	レザーによるカット技法を学ぶ。ヘアデザインの基礎を学ぶ。						
7	中間試験					40点	
8	パーマ剤の有効成分や、そのはたらきについて学ぶ。						
9	パーマネットウェーブ技術の行程について学ぶ。						
10	ピンカールの基礎理論を学ぶ。						
11	ヘアセッティングの種類と効果の違いについて学ぶ。						
12	ヘカラーの種類と、特徴について学ぶ。						
13	タイプ別染毛剤の使用手順について学ぶ。						
14	定期試験対策 今まで学んできたことを振り返り、理解を深める。						
15	定期試験					60点	
【特記事項】成績評価のためのテストとは別に、毎時間その単元の授業理解度を確認するための確認テスト(小テスト)を行う。				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価</li> <li>A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法</li> <li>評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	美容実習(オールウェーブⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢幸子
学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	水曜・火曜 1234限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験課題を長きに渡り指導する中で合格に導くノウハウを蓄積した教員が、実技第二課題であるオールウェーブセッティング技術を合格レベルに到達させるための授業を行う。美容師への第一歩となる資格試験合格へ向け道具の準備や扱い方、7段ウェーブの構成を覚えヘアセットの理論と高い技術を習得する。							
【授業を通じての到達目標】							
オールウェーブセッティングの全員合格を目指す。1段ずつの作り方を正確に覚え国家試験タイムと同じ25分で仕上げられるようになる。ウェーブ7段と左右中央のバランスを覚え、正確なカールを正しい位置に作れるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	1年次の復習と振り返り						1
2	4段目リフトカールの復習						1
3	5段目リフトカールを覚える						1
4	6段目メイポールカールを覚える						1
5	7段目クロッキノールカールを覚える						1
6	ウェーブ7段の構成見直し						1
7	中間テスト 全頭38分						中間テスト 20
8	コームの使い方、姿勢、立ち位置の見直し						2
9	ウェーブ7段の縦幅をそろえる						1
10	リフトカールのステムとシェーブ・ピニングの確認						2
11	ウェーブとトリッジの割れ、重なりをなくす						2
12	左右、中央エリアと分け取り線の整え方を知る						2
13	全頭のタイムアップ33分						2
14	定期試験に向けて課題を見つけ完成度を上げる						2
15	定期試験 全頭33分						定期試験60
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	美容実習(ワインディングⅢ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	張 由香
		授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 金曜日
学科・コース		美容師科					
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
サロンワーク、ブライダル、撮影の仕事を長期にわたりさせて頂いております。本校の実技講師としても授業と並行してサロンワークを継続して ります。その経験で基礎技術の重要性を知りました。学校での二年間で正確な基礎技術を身に付けて応用し、将来に生かして頂きたいです。 そして必ず国家試験に合格しましょう。							
【授業を通じての到達目標】							
国家試験の規定項目を覚える。 正確な巻き方を修得。 制限時間内に全頭を巻く。 忘れ物をしない。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	巻き方と配列の確認。下巻きの確認。					1点	
2	巻き方と配列の確認。センター下巻きの確認。上巻きの確認。					1点	
3	フロント～右面9本の導入。正しい姿勢を覚える。					1点	
4	右面の巻き方を覚える。姿勢の強化。					1点	
5	左面の強化。スライス線システム姿勢の確認。					1点	
6	左面の強化。スライス線システム姿勢の確認。					1点	
7	衛生の準備 ～制限時間内に全頭を巻く。手直しの確認。					20点	
8	巻き方を確認。センタータイムアップ					1点	
9	手付きと姿勢の確認。フロント～右面巻き納まり強化。					1点	
10	手付きと姿勢の確認。左面の強化。					1点	
11	全頭を正確に巻く。					1点	
12	手付きと姿勢の確認。巻き方の修正。					1点	
13	手付きと姿勢の確認。巻き方の修正。					1点	
14	制限時間内に全頭を巻く。					1点	
15	衛生の準備 ～制限時間内に全頭を巻く。					60点	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	美容総合技術Ⅲ Beauty PolitekhizmⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山下 洋子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	月曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現役美容師またはその技術に特化した知識がある美容師または美容関係者 美容師になる為の総合的な技術、知識を学び実践を通して身につけていく。 国家試験課題強化授業							
【授業を通じての到達目標】							
美容師として即戦力となり現場で活躍できる技術、知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	ブロッキング センター5分30秒 毛幅 シェーブ確認						
2	ブロッキング 右バックサイド7分30秒						5
3	ブロッキング 左バックサイド6分30秒 配列確認						
4	ブロッキング 左右対称つながり ロットの方向性						5
5	オールウェーブ 1段目～左右ウェーブ						
6	4段目 5段目 リフトカール						5
7	メイポールカール						
8	クロッキノールカール						5
9	ブロッキング見直し						
10	シェーブ確認 ステム確認						5
11	バックサイドつながり ゴムのかけ方						5
12	全頭タイム20分						60
13	ウェーブ リッジの強化						5
14	カールの強化						5
15	全頭タイム25分						60
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	文化論 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢幸子
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜・1・2・3・4限
学科・コース							
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
文化論教員資格認定を受けた教員が、美容文化論の講義をする。理容業、美容業の歴史を理解し、さらに髪型、化粧、服装の変遷流行を学ぶ。そこに見える風俗と時代背景とのつながりを読み解き、流行のメカニズムを知り、これからの時代のデザインを起すヒントを得る。文化論は美容師国家試験科目であり意欲をもって取り組み修得するものとする。							
【授業を通じての到達目標】							
理容美容、および理容業、美容業の成り立ちを知る。日本のファッション文化史を縄文時代から2000年以降まで修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
文化論教科書 シラバス プリント							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	第1章総論 第2章日本の理容業・美容業の歴史 1・2節						1
2	第2章 日本の理容業・美容業の歴史 3・4節						1
3	第3章ファッション文化史日本編 第1節 縄文・弥生・古墳時代						1
4	第3章 第2節 古代 (飛鳥・奈良・平安)						1
5	第3章 第3節 中世(平安末・鎌倉・室町・戦国)						1
6	第3章 第4節 近世Ⅰ(戦国末・安土桃山)						1
7	第3章 第5節 近世Ⅱ(江戸時代髪型・化粧・服装)						2
8	中間テスト 第1章～第3章5節までの範囲 30問						20
9	第3章 第6節 近代Ⅱ(明治・大正・昭和20年までの髪型)						2
10	第3章 第6節 近代Ⅱ(明治・大正・昭和20年までの化粧・服装)						2
11	第3章 第7節 現代Ⅰ(1945～1950年代)						2
12	第3章 第8節 現代Ⅱ(1960年代～1970年代)						2
13	第3章 第9節現代Ⅲ(1980年代～1990年代)第10節現代Ⅳ(2000年代以降)						2
14	第1章～第3章まで 定期試験に向けての対策講義						2
15	定期試験 第1章～第3章までの範囲 30問						60
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	美容保健Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大須賀範子
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1～4限
学科・コース	美容師科						
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
学位を取得している担当教員は、母校では6年間、美容専門学校では2013年から、講義を担当。教科書の内容をより理解できるようにアクティブ ラーニングを取り入れている。美容保健を学ぶことにより人体の各名称や特徴などを理解することは、他の分野で生かすことができる。また、将来美容師としての知識の信頼につながり、技術の習得や向上に役立てることができ有能な美容師としての活躍の場を広げることができる。							
【授業を通じての最終目標】							
国家試験に合格し、国家資格保持者として自己管理に応用するほか 第3者に説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教科書(保健)-日本理容美容教育センター発行							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	第1章 皮膚の構造 皮膚の表面 皮膚の断面 表皮						
2	第1章 皮膚の構造 真皮 皮下組織 皮膚の部位差 小テスト					小テスト 5点	
3	第2章 皮膚と皮膚付属器官の構造 毛						
4	第2章 皮膚と皮膚付属器官の構造 脂腺 汗腺 爪 小テスト					小テスト 5点	
5	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 対外保護、体温調節						
6	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 知覚作用、分泌作用、吸収作用、再生作用						
7	試験対策 第1章 から第4章まで総復習						
8	中間テスト					20点	
9	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 皮膚と精神、栄養、水分と脂の関係他 小テスト					小テスト 5点	
10	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 接触皮膚炎						
11	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 (角化異常 色素異常 分泌異常について )						
12	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 化膿菌 ウイルス他						
13	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患 真菌、害虫、脱毛症、 小テスト					小テスト5点	
14	試験対策 第1章 から第6章まで総復習						
15	定期試験					60点	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			